

デビュー = 所得増!...では全くなかった。



デビュー前までは生活のために歌の仕事をしたり、ニッポン放送の「コッキーポップ」というラジオ番組で大石吾郎さんのアシスタントをしていました。私にとっては初めての「喋る仕事」だったので、当然ながらNGの連発でした。まだ九州弁が抜けていないのでアクセントを間違えたり、「お葉書を読みます～」と言って葉書の住所の読み間違いを連発。でも吾郎さんとスタッフが優しく導いてくれたおかげで「喋る仕事」を「楽しい仕事」と思うようになり、それは今でもたいへん役立っています。デビューが決まってすべてを辞めなければならなくなった時は、とても残念でした。

さて「歌は世につれ」という曲でデビューし、全国に宣伝して回るキャンペーンがスタートしました。しかし、専属契約料が突如として高額になるわけでもないし、スタジオ仕事も辞め

てしまったので収入は激減。一瞬、お金の心配がよぎりましたが心配は無用でした。忙し過ぎて、自分のお金を使う機会が少なくなりましたから。当時は新人への待遇も良く、家賃を始め、毎日のようにスケジュールが入っていたので食事も何もかも事務所が経費で持ってくれました。デビューって華やかなイメージがあるので、それなりの収入がアーティストにもあると思われがちですが、売出す会社にとってのデビューとはそのアーティストへの投資をスタートするということですから、デビュー＝所得増ではないのです。だから売れなければ専属契約料も上がらないし、印税も入りません。困窮したデビュー当時は、経費を使ってくれる事務所が大変ありがたかったです。ヤマハには全国に支店があり、イベントスペースもあったのでそこで唄ったり、コンサート、地方のテレビやラジオ出演、新聞・雑誌の取材、夜はお世話になっている地元の方とお食事をしました。遅くにホテルに戻って翌朝はまた列車で次の街へ。私は数日分の着替えや洗面道具と共に、素晴らしいけど重いギターを持ち(私は、大切な物は自分で持つタイプな

ジャズボーカリスト
星乃けい

official website
<https://www.hoshinokei.com>

んです)、駅の階段では荷物の重さで泣きそうでしたが、どこに行っても歌を聴いてくれる人が待っていてくれると思えば平気でした!そして数日置きに家に帰るとまず洗濯です。まだ洗濯機を買う余裕がなかったので手洗いし、グューグュー絞って室内干し。次に帰京した時には乾いているというサイクルでした。ある日帰宅したら、干している所の床にカビを発見、疲れがドツと倍増したこともありました。それまでは川崎市の鷺沼に住んでいましたが、事務所が青山のマンションを用意してくれたので引越をしました。そのとき何はさておき、洗濯機を買ったのは言うまでもありません。

★Merry Christmas★



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される